

創刊 平成14年(2002)6月5日

ちば環境再生県民の会

ちば環境再生県民の会 広報

・第43号 発行日・令和3年(2021年)6月 発行

令和2年度・第2回ちば環境再生推進委員会は書類での検討となりました。

令和2年度ちば環境再生基金事業報告

I 基金の事業

- 1 県民の環境活動への支援 各地域で行われている市民団体活動を中心に 66 件
- 2 提案型環境再生事業への助成 (平成29~令和2年度なし) 応募者なし
- 3 環境活動見本市等普及啓発支援事業への助成 2 件
団体名 エコメッセちば実行委員会, アースデイちば実行委員会
- 4 未来の環境活動担い手支援事業への助成
団体名 千葉県立市原八幡高等学校, 千葉県立船橋芝山高等学校
- 5 廃食油燃料利用促進プロジェクト事業への助成

II 啓発・募金活動

1 募金の状況 合計件数 308 件, 15,001,278円

個人からの寄付 2 件, 様々な募金活動による募金 2 件, 企業・団体からの寄付 33 件. 職場で集められた募金 261 件, その他(利息) 10 件

2 大口募金

イオンリテール株式会社南関東カンパニー (レジ袋有料化に伴う売上金の一部)
株式会社カスミ (レジ袋有料化に伴う売上金の一部)
株式会社ヨーク (レジ袋有料化に伴う売上金の一部)
株式会社イトーヨーカ堂 (レジ袋有料化に伴う売上金の一部)
株式会社伊藤園 (「お~いお茶『お茶で千葉を美しく。』キャンペーン売上金の一部」)
株式会社京葉銀行 (アルファバンクのエコプロジェクト)
アコレ株式会社 (レジ袋有料化に伴う売上金の一部)
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社千葉支店
AGC 株式会社千葉工場
千葉県酒類販売株式会社 (千葉県産の農産物を使用したオリジナル商品の売上金の一部)
三井化学株式会社市原工場
双葉電子工業株式会社社員一同
住友化学株式会社千葉工場社員一同
月島テクノメンテサービス株式会社
昭和電工株式会社市原サイト社員一同
富士石油株式会社

詳細は環境再生基金のホームページをご覧ください。

令和3年度ちば環境再生基金事業計画(案)について

1 令和3年度の活動に対し助成する事業

- (1) 県民の環境活動支援事業 各地域で行われている市民団体活動を中心に 69 件
- (2) 提案型環境再生事業 コウノトリと共生する地域づくり推進協議会 (新規)
- (3) 環境活動見本市等普及啓発支援事業 エコメッセちば実行委員会 (継続)
- (4) 未来の環境活動担い手支援事業

団体名 千葉県立船橋芝山高等学校, 千葉県立市原八幡高等学校理科部, 千葉県立松戸南高等学校科学研究部, 学校法人中央国際学園中央国際高等学校

- (5) 廃食用油燃料利用促進プロジェクト事業

団体名 農業を楽しむ会, 横芝光町, ちば油畑プロジェクト

資料 4				
令和3年度 ちば環境再生基金 当初予算(案)について				
ちば環境再生基金会計				
令和3年4月1日から令和4年3月31日 (単位:千円)				
科 目	当初予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 収入の部				
1 寄付金収入	8,000	6,000	2,000	
2 補助金収入	12,358	11,944	414	県補助金
3 利息収入	200	200	0	
当期収入合計 (A)	20,558	18,144	2,414	
前期繰越収支差額	824,639	824,987	△ 348	
収入合計 (B)	845,197	843,131	2,066	
II 支出の部				
1 県民の環境活動支援事業	12,029	12,818	△ 789	
2 提案型環境再生事業	2,200	0	2,200	
3 負の遺産対策事業	0	0	0	
4 環境活動見本市等普及啓発支援事業	1,860	3,000	△ 1140	
5 未来の環境活動担い手支援事業	400	200	200	
6 廃食用油燃料利用促進プロジェクト	600	600	0	
7 啓発事業費	2,000	2,000	0	
8 管理費	12,358	11,944	414	県補助金を充当
9 事務費	2,000	2,000	0	
当期支出合計 (C)	33,447	32,562	885	
当期収支差額 (A - C)	△ 12,889	△ 14,418	1,529	
差引基金残高 (B - C)	811,750	810,569	1,181	

2年ぶりの会場開催を目指して・エコメッセ 2021in ちば 準備状況報告 エコメッセちば実行委員会 谷合 哲行

エコメッセ 2021in ちばは 2 年振りの会場開催を目指して 2021 年 4 月 15 日から出展団体募集を開始しました。今年のテーマは”笑顔あふれる未来を創ろう”です。昨年から SDGs の 5 つの P で表される分野にもフォーカスし、今年は“Prosperity(豊かさ)”に注目したイベントにしたいと企画しています。昨年は完全オンラインイベントになってしまったことを教訓に、今年も会場出展だけでなく、オンライン出展も同時に募集を開始しています。募集日程や内容はこれまでとやや異なっています。

【会場出展】

会期：2020 年 10 月 17 日(日)12:00～16:00

会場：幕張メッセ国際会議場

来場者数：1,200 名（事前受付・入れ替え制）

出展団体数：約 40 団体

■出展料

企業・行政- 1 区画 20,000 円（消費税込み）

市民団体・大学- 1 区画 8,000 円（消費税込み）

高校・学生団体- 1 区画は無料

■募集区画：1 区画（2m×2m）単位で全体を 50 区画（40 団体程度）

■募集期間：4 月 15 日～7 月 17 日（先着順）

【オンライン出展】

会期：2021 年 10 月 16 日(土)10:00～2022 年第 27 回開催前日まで

会場：エコメッセちばホームページ内

■募集コンテンツ：

①動画（基本は 動画 MP4 を 3 分で作成ください。3 分を超えると 3 分単位で追加料金が発生します）ご提供の動画は、YouTube に事務局で登録します。

②写真（JPEG 形式で 15 - 20 枚）と説明文（画像 1 枚あたり 20 文字程度）でパワーポイントのスライドショー形式で 3 分間動画（mp4）にして送ってください。

■出展料

企業、行政 10,000 円/ 3 分（消費税込み）* 3 分追加ごとに 10,000 円加算

市民団体、大学 4,000 円/ 3 分（消費税込み）* 3 分追加ごとに 4,000 円加算

高校・大学生団体は無料

■応募方法：会場出展・オンライン出展どちらもエコメッセちばの HP 上の申し込みフォームからお申し込みください。

出展団体への追加サービスとしてオンライン（zoom）を利用して双方向的に交流する場を提供します。こちらも詳細はエコメッセちばの HP からご確認ください。

COVID-19 の感染状況がまだ不明確ですが、今は会場開催ができる前提で準備を進めています。ワクチン接種も進められていますので、10 月 17 日(日)には幕張メッセで皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

幕張メッセ+オンライン(動画配信) オンライン開催 2021年 10月16日(土)
会場開催 2021年 10月17日(日)

第26回 つながれ、ひろがれ、エコメッセ「千葉県最大の環境活動見本市」
エコメッセ 2021 in ちば
Prosperity: 笑顔あふれる未来を創ろう

2030年ゴールに向けた取り組みをアピールしよう!
持続可能な「Prosperity(豊かさ)」とコロナ禍をポジティブに乗り切ることを意識して、今年のテーマとしました。

SUSTAINABLE GOALS
PLANET
PEOPLE
PROSPERITY
PARTNERSHIP
Sustainable Development
PEACE

会場出展
募集団体数 40 団体 ※40団体を超えた場合は団体数を増やします。
日程 2021年10月17日(日)12:00～16:00
会場 幕張メッセ国際会議場ホール
出展料 企業・行政 ¥20,000円/1区画
市民団体・大学 ¥8,000円/1区画
高校・学生団体 1区画無料
※乳児使用の場合は、出展料とは別に使用料がかかります。
企業・行政 500W毎に4,000円
市民団体・大学・高校・学生団体 500W毎に2,000円

オンライン出展
募集団体数 100 団体 (目標)
日程 2021年10月16日(土)10:00～
出展料 企業・行政 3分以内 ¥10,000円
市民団体・大学 3分以内 ¥4,000円
高校・学生団体 3分以内無料
※3分超過ごとに ¥4,000円加算

2021年7月17日(土)
申込受付 2021年9月17日(金) ※Zoomにて開催予定
※出展料および写真・動画の申込は10月17日(日)まで、事務局までご連絡ください。
※申込手数料はご負担ください。
※入会費別途、正式受付に及びますので、ご注意ください。

2021年8月17日(火)
申込受付 2021年8月17日(火)
開催日 2021年9月17日(金)

応募は、お申込みフォームからお申込みください
<https://www.ecomesse.com>

NPO 水環境研究所の活動

特定非営利活動法人水環境研究所

理事長 瀧 和夫

特定非営利活動法人水環境研究所(以降は NPO 水環境研究所)は、印旛沼流域及び千葉県内に多数湧出する湧水と、それに関係する生物・地質環境などを調査研究対象とし、水環境の実態把握とその保全を目的として、平成 16 年(2004)に発足し、今年 10 月で 15 年目を迎えることとなります。

当 NPO 水環境研究所の歴史は、一部有志・ボランティアによる印旛沼周辺の湧水調査平 2(199 年)年ごろから行われていました。この有志の中には佐倉市自然環境調査団のメンバーも含まれていましたが、現在の NPO 水環境研究所の主要メンバーもその活動に参加しており、佐倉市自然環境調査報告書が平成 12 年(2000)3 月に発行されました。この有志の一部が中心となって、平成 12 年 7 月に任意団体「千葉県自然環境研究会」を設立いたしました。団体の目的は、簡潔にまとめますと、①湧水地点の地質・水質・生物の各環境調査、②定期観測、③印旛沼の環境浄化運動の推進、④湧水の保全のための活動の実践、の 4 つです。

NPO 水環境研究所においてもこれらの目的は受け継いでおり、「自然環境調査」を基盤としていくところが会の特徴です。①印旛沼流域および千葉県域の湧水地点における地質・水質・生物に関する定期環境調査活動、②印旛沼環境に与える湧水の役割についての調査研究活動、③定期公開講座を通しての啓発・広報活動、調査・研究成果としての著作活動であります。数年に 1 度発刊する「特定非営利活動法人水環境研究所年報－わきみず－」にその活動成果を掲載してきました。

次に、NPO 法人水環境研究所の活動を順にお話させていただきます。

印旛沼流域および千葉県域の湧水地点における地質・水質・生物に関する定期環境調査活動を「印旛沼環境基金助成事業」及び「ちば環境再生基金助成事業」の援助を受け現在、実施しています。ここで、印旛沼流域に対しては印旛沼環境基金助成事業として、それ以外の千葉県域の湧水地点における調査についてはちば環境再生基金助成事業として実施しているところです。

印旛沼流域に在る主な湧水についての調査結果は「ちばの湧水めぐり」(平成 22 年(2010)7 月崙書房出版)として、また、本年 3 月にその続編として、その後の 10 年間の調査結果をまとめ、リーフレット「印旛沼エリア湧水めぐり(その 1)」として発刊したところです。湧水の写真や地図だけでなく、水質データも掲載しています。続編(その 2 以降)を本年度以降順次発行する予定にしております。ご一読・ご利用下さいましたら幸いに存じます。ここで、「ちばの湧水めぐり」は出版元の崙書房が閉鎖されてしまったことから、残念なことに絶版となっております。一方、千葉県全域の湧水調査は各地点年 1 回、秋季から冬季にかけて毎年実施としており、10 年間をめぐりその調査結果についても整理を進めつつあるところです。まとめ次第公表へと検討しているところです。

調査研究事業として、印旛沼流域の谷津頭に広がる湿地帯の水質浄化機能の調査があります。近年の休耕田となってしまった湿地帯の水質浄化機能を明らかにするものです。調査は平成 29 年(2017)5 月に始まり、現在も毎月 1 回の頻度で実施しており、4 年間に亘るデータが蓄積しているこ

とになります。気象、地質、水質、生物に至る諸項目について、千葉大学の近藤昭彦先生、国立環境研究所の西廣淳先生のご指導を頂きながら調査を進めているところです。調査研究は継続されていますが、今年から中間的まとめの時期と考えております。調査湿地帯での会員諸氏にとって、夏季は蚊の出迎えを受け、冬季は雪や薄氷の中での作業、春はカエルと鶯の鳴き声に癒され、また、秋にはオニヤンマが目の前を飛び交い、また、自然の恵みである栗拾いやアケビの実取りに興じるなど、自然の営みを肌で感じる格好の機会となっております。

水環境の保全・普及啓発に関する活動に、ちば環境学習応援団(千葉県)の一団体として、また、講演会主催や各種学会での成果発表、及び、他団体との共同での環境学習・調査支援があります。

ちば環境学習応援団では、下総台地の地下水及び湧水の特徴、河川湖沼の保全の考え方などをテーマとした学習を実施しています。その他、印旛沼流域環境・体験フェアにて印旛沼流域の湧水の水質水量の状況の報告と体験水質検査を実施しており、普段の活動の成果と合わせて、印旛沼流域の湧水調査と保全・啓発等の活動に対して、第4回印旛沼・流域再生大賞(印旛沼流域水循環健全化会議)を受賞することが出来ました。

学術会議での成果発表は日本水環境学会シンポジウム(日本水環境学会)、環境技術学会年次大会(環境技術学会)、環境情報科学研究発表大会(環境情報科学センター)、印旛沼環境基金助成成果報告(印旛沼環境基金)、ちば環境再生基金助成事業成果報告(千葉県環境財団)、及び、日本地下水学会などにおける学術講演会での発表を行っています。

その他、河川・湖沼や湧水の水質を含め、流域に根付く水文化も含めて、幅広い知見に基づく環境保全の啓発・広報活動として、講演会(千葉県、佐倉学びあい講座、旭市、その他の市町)、公開講座(佐倉市との共催)、更に、当水環境研究所発行の季刊誌「わきみず通信」、水環境研究所年報「わきみず」、リーフレット「湧水めぐり」を実施してきました。また更に、他活動団体との共同活動として、「せっけんの街」との湧水調査活動、「八千代オイコス」との水の学校を挙げる事が出来ます。現在は「里山の会 ECOMO」との湧水調査活動が年一回の頻度で実施しております。

更に、平素の活動の源と言うべき「湧き水巡検」を恒例の行事に組み込んでおり、実施した主なものは、「まいまいず井戸(羽村市)」、「酒々井の湧水めぐり」、「銚子周辺の湧水」、「冷湖の霊泉(福島県昭和村)」、「忍野八海(山梨県忍野村)」で、これからも進めて行く予定にしています。

最後に、近年の異常気象に伴う「水循環のひずみ」が経年的な湧水量調査から明らかになりつつあります。ひいては、地下水の流動環境を変えるなどの影響を与えることとなります。当 NPO 水環境研究所の活動域は首都圏に隣接しており、自然的要因と人為的要因とが複雑に絡み合いながら流域水循環を形成している場にあることから、活動の重要性が益々高まることと考えております。今後も「ちば環境再生県民の会」のみな様のご援助を頂きながら、当 NPO 水環境研究所を進めて参りたく存じます。

新型コロナ禍ながら、会員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げますと共に、今後とも当 NPO 水環境研究所への変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

”居場所”は今日も元気です!!

居場所づくりの会代表 谷合 哲行

2020年度10月以降、緊急事態宣言や蔓延防止等重点対策が適応されている期間が長く続いています。居場所づくりの会が管理・運営している浜町の”シェアスペース・なんか”は会員の方のイベントや会合、教室などを目的とした利用を継続しています。3月から5月にかけては、多くの公共施設が閉鎖や時短、利用制限をされる中、多くの団体で総会準備や総会を行う場所として”なんか”を利用していただくことができました。また、会員間や会員団体内の会議やオンライン教室用にzoom会議を貸し出すサービスも行っており、COVID-19禍での団体活動継続のための不可欠なサービスとなっています。もともと高齢化と会員数の減少で消滅の危機にあった団体にとっては、今回のCOVID-19禍は致命的な打撃を与えています。従来通りの活動ができなくなったときに、その状況に適応した新しい活動形態に踏み出せるかどうかや団体活動を継続できるかどうかを分けてしまいます。そんな時には我々居場所づくりの会にご一報いただければ、一緒にこの状況でもできることを考えさせていただきたいと思っています。

田久保 晴孝 三番瀬写真展

船橋市勤労市民センター1階 展示室 (入場無料)

2021年 5月7日(金) 8日(土) 9日(日)

10時～18時(9日のみ17時)

干潟は 地球の宝

三番瀬では多種多様な生命が育ち えさとなつて他の生命を支えています。 埋め立てが進み

都市に囲まれていても漁が続けられ 海からの

風は陸の気温上昇を和らげます。 干潟の四季を



ミヤコドリ(手前)は カムチャッカ半島からわたくしに来る 鳥は 江戸時代までは「みやこどり」と呼ばれたユリカモ

長年繰り返す田久保氏の写真の数々 三番瀬の生態系が垣間見える展示をご覧ください。一方で 私たち人間が海一地球に対して 様々な負荷をかけている現実を忘れることは出来ません。海洋プラスチックごみ、青潮、高速道路のことなど 三番瀬に関わる大きい問題についても考えます。



主催 三番瀬を守る会

協賛 NGO 三番瀬のラムサール条約登録を実現する会

フィールドミュージアム三番瀬の会

後援 船橋市

お問合せ 0474-34-5382(佐藤)

tahara-tsunabashi@toros.ocn.ne.jp (佐藤)



麻友

kohana +plus 英音〜木工房〜

お花の壁掛け

麻のランプ

着物リメイク

バッグ

洋服

つまみ細工

髪飾り

七五三

小物

日常にPlusになるもの

おはなplus +マルシェ

2021年 5月 28日(金)

2021年 6月 25日(金)

2021年 7月 23日(金)

開催時間 10:30 ~ 16:30



麻友

kohana +plus

英音〜木工房〜

お花の壁掛け

麻のランプ

着物リメイク

バッグ

洋服

日常にPlusになるもの

つまみ細工

髪飾り

七五三

小物

さて、こんな状況下でも新しい活動に踏み出せている団体もあります。居場所づくりの会の団体会員であるフィールドミュージアム三番瀬・三番瀬を守る会・NGO 三番瀬のラムサール条約登録を実現する会が共同で開催した”田久保晴孝 三番瀬写真展”が船橋勤労市民センター1階展示室で5月7日から9日までの3日間開催されました。COVID-19禍でしたが、3日間で180人もの参加者が参加する大きなイベントになりました。また3月から毎月第4金曜日に開催されている”おはなPlus + マルシェ”という展示即売会イベントも、居場所づくりの会に関わる3人のものづくり作家さんが共同で開催する合同企画になっています。居場所づくりの会での活動や”シェアスペース・なんか”の存在がCOVID-19禍によって新たな価値を与えることになっています。オンライン会議を利用して遠隔地に住んでいる人達ともつながりながら、できる時には対面してひざ詰めで議論しながら、どのような状況になってもそれぞれができること・できる範囲を広げてゆく。”居場所づくりの会”はそんなみんなの居場所に成長しようとしています。

居場所づくりの会 HP : <https://dribasyo.wordpress.com/>

今回は急遽ゴーストライターAが、ウーフの歓迎会で久しぶりにブランデーを飲んでダウンした場長のピンチヒッターに入ることとなりました。不慣れな物書きですが、どうぞよろしくお願い致します。

最近はどんどん日が延び、季節の変化が著しいですね。まだまだ霜が降りたり冷たい風が吹く中でも、野の草は少しずつ活気づいて、仏の座が日の光を浴びて薄赤紫の花をあちこちに咲かせています。ハウスのサニーレタス(終盤です)も小さくて心配していた小カブも大きくなっています。

そんな中、今日はウーフさんの来訪と共に現代農業が届きました。いつも読んでいた訳ではないのに(汗)、その中に気になるエッセイを見つけました。生物季節観測の縮小という内容です。知らなかったことは、昭和28年から生物季節観測が行われており、それは全国58地点で植物34種目、動物23種が対象でした。桜の開花やモミジの紅葉、ウグイスや蝉の初鳴き等を職員が目視で観測し記録、気象庁に報告するものです。それらの観測資料は農業や環境保全に関わる人に広く使われ、農家にとっては品種の選択、作付けや収穫時期の判断に活用できる資料だったとのこと。気になったのは、人力で観測・記録し蓄積するという手堅い手法。IT主流の現代で忘れかけていた温かく何か心から信頼できる感覚、そして、地道なお仕事のおかげが私達の暮らしに繋がっていたんですね。ところが、気象庁は全般見直し(近年の環境変化に伴い、対象植物を確保すること、対象動物を見つけることが困難だからと言う理由)をし、今年1月1日より観測対象を減らし、動物観測は廃止、対象植物も6種9現象のみとなりました。筆者の古川武彦さんは今回の見直しで、これまでのデータの継続性が失われること、進行中の温暖化による動植物の生態系変化の監視が手薄になり、またそれは農業関係者にも大きな痛手になるのでは、と危惧しています。私が気になるのは、なんでもかんでも合理的業務縮小していいものか。観測する植物の中には栗、桑、シバ、シロツメクサ、動物には殿様蛙、ミンミンゼミ、モズ、アキアカネ、トカゲなど懐かしさも覚えるような日本の四季感覚と、日本人の情緒を育ててきてくれた財産とも思えるような選択肢、これをたっしてしまっているのかと言う疑問です。幸い気象庁が市民に生物観測のノウハウを提供し、市民参加のナンチャラを推進していく方向を検討しているようで多少安心しました。が、これに限らず、浮ついた情報あふれる社会で、知らずに失われていくかも知れない、日本の大事な部分を見逃さずに守っていきたいなと感じた今日でした。

今年は3月5日が啓蟄の日でした。啓蟄は春になって虫が動き出すという旧暦の二十四季節の日です。いよいよ迎えた春になって冬ごもりしていた生き物が地上に一斉に出てくる季節になりました。

虫たちばかりでなく庭先に露の臺が出てきました。真っ黄色の鮮やかなタンポポも咲き始めました。越冬していた小麦も一斉に立ち上がり畑の緑がまぶしいです。一方、日数の経った菜っ葉類は茎建ちを始め菜の花が咲き始めています。

これからは、葉物類が難しくなる季節で、冬野菜から夏野菜へと変わる季節で収穫物の端境期になります。宅配の品目が揃うかどうか心配です。

一方で、人参、大根、ゴボウ、長ネギなどの種蒔きやら植え付けの季節で私も今日は、ジャガイモ植えをしました。一昨日は雨が降りましたが、今日は快晴で少々風が吹きましたが、まあまあいい天気です。順調に植え付けを終えることができました。

話は変わりますが、あの東北大震災からちょうど10年。TVでは特集が何本も組まれています。これはと思う特集を録画し見っていますが連れ合いとチッシュペーパーの取り合いをしながら見えています。

想像もできない体験は10年経とうが忘れることができない。生き残った人も亡くなった人を使うと申し訳ないという思いがあって、これもあの体験を引きずっている人も多いようです。

また福島原発は10年経った今も原子炉内がどうなっているのか、誰も直接知ることはできません。人が作ったものをどうなっているのか人が確認もできず、始末することもできないとはなんと言うことでしょう。

原発事故は収束した、だから東京オリンピックは開催できると偉いさんは言ってきましたが、ウソに思えてなりません。メルトダウンしたウランは回収できず、放射能まみれの土塊は積み上げられたまま、汚染水は置き場がなくなるなど、問題解決にはほど遠い感があります。

もういい加減に進歩とか、経済発展とかと言う議論はよして静に今ある命に感謝して生きる「知足」の世になった方がいいのではないかと、思います。私の恩師の「人間は自然がなければ生きてゆけない」という教えをまたまた思い出します。母なる自然に背いてまで欲望の限りを求めていいのだろうか、と思うのです。

吹けば飛ぶような種が芽を出し育つ様は感動です。

その命をいただいて私達の命があることに感謝です。

(産地の声)vol. 1480	おかげさま農場・高柳功	2021. 3. 17
(産地の声)vol. 1481		2021. 3. 24

家の前の桜が咲き始めました。彼岸におばさんが来ての会話。「昔は伊能のお祭りの時に満開だったねえ!」と。そのお祭りとは毎年4月の17日から19日の3日間の当地の大須賀神社の例祭だったのです。

それから学校の入学式には決まって「桜の花もほころび・・・」と言う枕詞が続いた頃がありましたが、これも合わなくなってきました。なんだか春がだんだん早くなってきました。家の前の小松菜などの菜っ葉がみんな満開となってしまう菜の花畑になってしまっています。

そんなことで、いよいよ田んぼの種蒔きの季節になっています。籾種は積算温度百度(10度の水温だったら10日、15度の水温だと約1週間)に浸種します。16日に浸種し今日24日に水切りして明日の種蒔きの準備をしました。

種蒔きは機械ですが、結構人数が必要です。箱を入れる人、床土を入れる人、種蒔きをした箱を機械から取る人、運ぶ人、並べる人、機械の調整をする人等、1時間に300枚が流れますのでそれを裁かないと仕事になりません。

あちこちに声をかけ、10人くらいになりそうです。明日は第1回目で約550枚くらいを蒔きます。約100坪のハウスの半分のスペースが必要です。並べ終わったら保温材をかけ芽出しを待ちます。こここのところ失敗ばかりしてるので今年こそよくしたい思いなのですが、、、。

種蒔きが始めると、気がせきます。これからは作物の生育に合わせて仕事をしなくてはなりません。人間の都合ではなく、成育の都合に人間の方が合わせなくてはなりません。不可逆的進行です。

野菜の方も収穫や荷作りと併せて、畑の耕耘や施肥そして植え付けなどの準備が始まり、れもこれもと言う事態です。

一方、これからの季節は冬野菜から春夏野菜へと切り替わるときであり、いわば端境期になります。野菜不足が懸念されます。品不足があらうかと心配になります。

山野は桜の花だけでなく、こぶしの花が咲き、道ばたの雑草の芽吹きに混じりながら真っ黄色のタンポポが咲いています。小さな花ですが鮮やかなタンポポの花は美しい!癒やされます。自然の恵みです。

ちば境再生県民の会広報・第43号・発行日：2021年・6月25日

会費：個人会員：1口1,000円以上・団体会員：1口2,000円：賛助会員：1口3000円以上

：寄付金など郵便振替口座番号：00140-4-545339・加入者：ちば環境再生県民の会

発行者：ちば環境再生県民の会発行責任者・中岡丈恵〒277-0803松戸市六高台4-154

電話/FAX：047-385-8950 E-mail：naka.hta@kzc.biglobe.ne.jp